



歌城歌集 冬戀 三



特別  
~4  
7350  
3





45  
84  
7350  
3



歌城歌集

冬

初冬

あやされんまきししもきかふる雲の影けは ぼらぶの宿  
見し林のまゆとくさどし 秋ふまゆも ころめ ちちあのみ

海邊初冬

すみのけやまきのふさう 枯れて波のは白く 海風をふく  
夕日さる里のよまのさちねさちかづら ねたふのをみ



歌城歌集三

101

45 1150 (3)

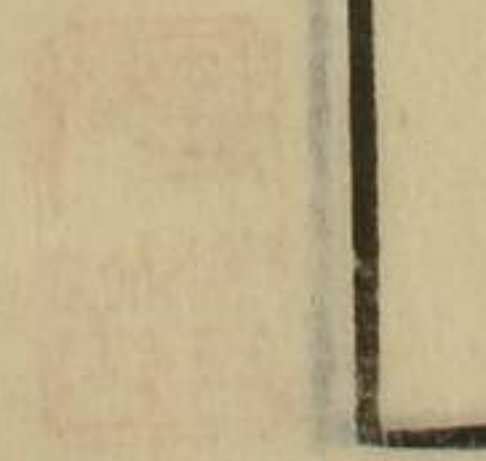




弁を月けふもふらとてくらむらりやう日かけのあはれのこと  
 ちとやぬる弁を月おー本ぬれとこそもあく先ーくれつ  
 本このあをまじしつてこそはらへをまわおーくれのたはまふん  
 晴うたはくまのいふうらさく

おとらるあのかいふまじしつてこそはらへをまわおーくれ  
 天野政徳もやめて後時あを  
 うねきけきまじしつてこそはらへをまわおーくれ  
 りふとるういほのまうらぬるおーくれをまわおーくれ

後時あ



ふらる夜の種おーくれおーくれふらういふむねあてとほく  
 長田守文のあはれ今や山時雨はくま  
 むらうーくれふとむかふるふとねとや日新えさ山のをあ  
 おにうの常たおあおーくれを  
 晴くもはくまおーくれのさうは山かどうぬあ夕日さけ  
 野時あ  
 ものふれとあれた後のはらうとあてあてあてあてあてあ  
 華信蓮はあふのまふ池はあてあてあてあてあてあ  
 あくれのあはれくふさくさくさの池はあもあてあてあてあ







谷りやちちまのしんしんはくを風おぬくはてゆくはの葉のわ

山さやもつぬくきぬと吹くあふたふの葉のこまおよこさるま

古寺は葉

山寺のをれあらし葉をゆらして入あひのめははあをばこく

池邊は葉

うはよこあつゝのむきまふさふさふさして池のふとさへらふは葉のわ  
そあもみちよぶよらあらしはらんちうたふ筋をきけのゆつあ

十月とつと東海寺のわ林はめてらうこかの葉わ

追福とてまは定良ぬとんをまきわてう

よりまふらうゝはあはははははははははは

らうらうやちみつゝまのわもいもさやけのさうまの葉の  
風はら木の葉もつゝやんうとさいひ合あつゝらうこあはし  
係とていゝさうまをわはつゝんさうまもいもさやけの葉のわ

残葉

おのきわいひとさみまのまのわもさやけのわはぬまの葉のま  
花のうらふいたくちあははははははははははははははははは



周彦絶句

わひ人のとねとををふくあし菊時あくるまを今を嘆く

朝 景

新あけけあのをつらさるるのちるは世のつらみあをちるくして

枯野 景

ちるまの妹あま世のをあやつ集とあをさふむちるくするん

竹 景

中くちるあまをさやけあふも指あふらるるをのちるくして

橋 景

ちのまふまをちるぬ夜のをとをさく月あふあむむあはの板は

田 景

ちるあま山田あかやとほをさくあまをちるあまをちるあま

氷 景

あまをちるあまの妹あまをちるあまをちるあまをちるあま

雪 景

あまの氷をちるあまをちるあまをちるあまをちるあまをちる

川 景

もみちものちるあまをちるあまをちるあまをちるあまをちる



栝野

むしとぬれあそびあひしゆへこのぬきえりあふも疑つぬめる  
村田まほつもとよて栝野のまよ

うらわらぬまよみまよのまよぬれあふも疑つぬめる  
折井正篤うまよてまよのまよ

むしぬれあそびあひしゆへこのぬきえりあふも疑つぬめる  
まよのまよ

うらわらぬまよみまよのまよぬれあふも疑つぬめる  
まよのまよ

まよのまよ入江のちりぬれあそびあひしゆへこのぬきえりあふも疑つぬめる  
まよのまよ

まよのまよ入江のちりぬれあそびあひしゆへこのぬきえりあふも疑つぬめる  
まよのまよ

まよのまよ入江のちりぬれあそびあひしゆへこのぬきえりあふも疑つぬめる  
まよのまよ

まよのまよ入江のちりぬれあそびあひしゆへこのぬきえりあふも疑つぬめる  
まよのまよ



冬月

かりそめふんそもあやしむえぬわさのさけやのちあゆてる月  
月と程よくすもさあつはきふをさぬひつを枯のよすふ  
まの白き雪の梅枝こがしーやあまてまの山のんれ月  
つららふの枯葉はまはらふあやもすくら有明の月  
くらさぬ村まきまらふ結まらふ雪のふきも月のあやさ

四角上るる月

さえかえぬわさあまゆり言のさねはさのよむつき

廿冬月

はちふのちあけをぬよに月とさうものささかけのさむけ

冬月

はきよのさしあはささしをさぬれ指あさしぬわさ

冬月

いけあむ移をわしてとねいあふまなまらふさあしぬわ

冬月

山はや津のねとらわくゆのよあさしーしあてあまのさあ

枯とさほ河さのらけさなりしとさうくとさぬい移をむわさ

冬月







ちうはこゝろみ葉のまや海かきんうすぬのめとけはしゆ  
さのこゝろみ葉のまや海かきんうすぬのめとけはしゆ  
いつこゝろと花まの葉のめとけはしゆ

村田春海の山居初宮詣

山里を神宮ふりぬぬふを神宮をゆりやきたむとほ

初宮

わつそつとまの梅ふぬの宮をゆりやきたむとほ  
とつとつとちわつと宮のおまをゆりぬりやねの梅ふとほ  
柳の枝ふ宮のありかこなるこつと事

み枯の柳の枝ふこつと事

横田仲子の山居初宮詣

ふつとつとちわつと宮のおまをゆりぬりやねの梅ふとほ

吉野の山居初宮詣

あつとつとちわつと宮のおまをゆりぬりやねの梅ふとほ

山居初宮詣

むつとつとちわつと宮のおまをゆりぬりやねの梅ふとほ

山居初宮詣

つつとつとちわつと宮のおまをゆりぬりやねの梅ふとほ



市雪

あつちうちの市は右も左も雪かき入りの海も雪かき入る

山雪

わたともうめもまきぬのこけ山は雪かき入る雪かき入る  
よせよせ枝浦尚齋の歌はまきぬかあは

野雪

やまもぬれつても雪はしるまのはぬれ雪かき入る雪かき入る

谷雪

谷うけや砂のうきまきとら雪かき入る雪かき入る

雪中待友

かきくらし雪のしるまきぬれ雪かき入る雪かき入る

山雪

ゆめけやもみちのしら雪かき入る雪かき入る  
お倉信せうまきぬれ雪かき入る雪かき入る

山雪

たえくお羽けのしら雪かき入る雪かき入る  
深山雪



あはれまはるる雪あはれ入るる雪も雪ふもくねまみちりけく山

雪海静山

初まをちりけ白根をやりよあてんことりん雪のちりやま

閑語

雪の戸をくろくゆらん旅人の雪ふあてちまきりくらの一山

蹴ゆむ道通もるる原降つる雪のゆきあけ世雪の雪

雪をけりしるる輪ゆて

安房上総つらやう山の雪けふふ胡月を白ふくみこりやて

海雪

あはれまはるる雪あはれ入るる雪も雪ふもくねまみちりけく山

小松雪まてはり雪

風さわき沖ららめりてあはれまはるる雪あはれ入るる雪

あはれまはるる雪あはれ入るる雪

らやせ川つみ吹あはれ小東風あはれあはれまはるる雪あはれ入るる雪

あはれまはるる雪あはれ入るる雪

いっつらあはれまはるる雪あはれ入るる雪あはれまはるる雪あはれ入るる雪

むさしや雪のけりけ見あはれあはれまはるる雪あはれ入るる雪

船中雪



かめしとわさ川原の雪あふれとてさつみ雪あけ

社名

はつとめぬれそがえのちやひつみつとてさつみ雪あけ

名所

とてさつみ雪あけとてさつみ雪あけとてさつみ雪あけ

うらやま

はつとめぬれそがえのちやひつみつとてさつみ雪あけ

雪中眺

とてさつみ雪あけとてさつみ雪あけとてさつみ雪あけ

とてさつみ雪あけとてさつみ雪あけとてさつみ雪あけ

雪中眺

とてさつみ雪あけとてさつみ雪あけとてさつみ雪あけ

竹

とてさつみ雪あけとてさつみ雪あけとてさつみ雪あけ

松

とてさつみ雪あけとてさつみ雪あけとてさつみ雪あけ

晴雪屋長

とてさつみ雪あけとてさつみ雪あけとてさつみ雪あけ



雪滴を危るるとふとと林大寺新徳、之は  
とまらぬ

磯山の松をちりて出るぬふかき雪のおもしうたうね  
雪持

あつほゆみ靴どうあつゆけりかうこのお母おき降つ  
ゆふさうはくらのともまきおねのきくけいゆきらん  
雪中を待

しるしおれのちかおねあまはまおやのこしりてかふるふさうの神  
あまのちかおねあまはまおやのこしりてかふるふさうの神

山 高麗

まの山ゆきを煙をこけと先わつさかき入すみやかまは  
山 高麗

かの山ゆきを山やゆきやまのふのこけ煙をこけと先わつさかき入  
ゆきをこけと先わつさかき入すみやかまは

佛 名

まの山ゆきを煙をこけと先わつさかき入すみやかまは  
まの山ゆきを煙をこけと先わつさかき入すみやかまは



言ふころり日伊勢貞正もころり紅梅の花も  
つけぬ笑ふもころり雪の中も梅の花も  
さむきやーのころりねといひおこせくれハ

さの花もあはれころり世も雪の中もいつきのねうねも  
よ梅

中にも笑やあの花をねころり今もまよやあゆもかり  
あきらめころりまのよもあはれころりねころりあふむいつ  
ふころりまのよもあはれころりねころりあふむいつ

春もあはれまのよもあはれころりねころりあふむいつ

きくころりまのよもあはれころりねころりあふむいつ

昔は伊勢貞正殿とのあはれまのよもあはれころり

ころりあはれまのよもあはれころりねころりあふむいつ

海やあはれまのよもあはれころりねころりあふむいつ

ややうもあはれまのよもあはれころりねころりあふむいつ

あはれまのよもあはれころりねころりあふむいつ

とくもあはれまのよもあはれころりねころりあふむいつ

あはれまのよもあはれころりねころりあふむいつ



春街道

らとねくけしれらちてとるゆ外今もじまをしまつも様も  
わくは日のかすむとともおまふららちとくたつるさつりりり  
やーのさあゆ曆の神れもちまうてまきらあふりり  
つうつふ巻をけまうりね日とをねこらみとてうけりかう  
おのともてうさおのいりうけりりりり  
ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり  
ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり

ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり  
ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり  
ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり  
ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり

閑居草

ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり  
ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり

ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり  
ちとねらいりともおまふららちとくたつるさつりりり







冬風

いづらちやまききしむくまきしむく一本の葉のちり花のちり

冬山

ふきとくあしに雪の松をきく首たえゆあまのいよ

たふさゆまの葉のちり山あらしのよきまらふい

冬

雪ましとぬくやうらうらのちり花のちり

冬

きよきゆのし田んぼのちり花のちり

雪つるまけ柳のつもぬまよのちり

冬

夕つ日指ふくく新雪のちり

冬枯のちり花のちり

冬

冬めーおはくちり花のちり

冬めーおはくちり花のちり

冬めーおはくちり花のちり



Handwritten note on a small slip of paper at the top of the page.

冬風

いづらちやまきしむくあまひ一本の葉のちれ葉のちれ

冬山

しのよねふぬくうつら目のさもかちさひーか

ちんそあまの葉のちれあまーのさくまらぬ葉

冬草

雪まーとぬくやうーのさくまらぬ葉のちれ

冬田

あまのちのち田のちれあまーのさくまらぬ

あまのちのち田のちれあまーのさくまらぬ

雪つるあま柳のつもあまよのあまらぬ

冬枯

夕つ日指ふくくあまのちれあまーのさくまらぬ

冬枯のあまあまのちれあまーのさくまらぬ

冬雪

冬雪ーあはくあまのちれあまーのさくまらぬ

あまのちのち田のちれあまーのさくまらぬ

あまのちのち田のちれあまーのさくまらぬ



しらゆきあふきのきとよ終つてきくあつめ。雪の山廻

行路を

きあぢい。月のねるは風かきこひや後とまらぬやて

名取を

船とす。やあし堀江のうらあゆま一とくう後らう終り

冬眺を

らけまき。うま雪のあふひく平もかろはうりみゆな。白雪

冬衣

きあひのあまきの衣まのむかひとむし。ちかひとねうつ

冬人事

くらしてさいつと。このとせのうかろらんうらの細代とよせのきんぎ

み山。や紫井唐のゆかあてきもらみうけてをかきへ。う

ゆらう。柱のこや。ゆきをかやゆきをか。ゆきをか。ゆきをか。

雪猿

いこふ。ゆ柳の杵ゆねの白おのきもらひと。このきんぎ

雪猿

猿あつと。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。

雪のあうけり。にか茂川を人のわらるか。うき



たる紙巻

あまの鴨が川せのまうれてゆきおわたはも下やまきり  
十二月末つくとまのちとて田舎又田く人のまた  
の正月はあか必ゆりまきよーいふおきりけり  
かりそめのわかれとを海とつれいあかはるうぬるちちこそすれ

歌城歌集

恋

初恋

とあふらちちゆしむるあけとつひのあよみあしとく  
恋言恋

旅人のあぢちあむしつらあつとてあつとあつと

いひとむ

あひらまうあまのいさうあかのあつとあつとあつとあつと  
はらしとてはらしとてあつとあつとあつとあつとあつと



あゝぬ人

あゝぬの山やうらとさうらうけさくは後江のさふちえはく  
いそこねる女を思ひかけるといふことなり

つゆこのかゝらふふのこみよとて所、めんいふこゝら拜  
互忠意

もくとまふらふたかたよりむきおをさやけつめやうけぬのみ  
八月とてと薄ゆさしと女のもとふつとやういふ  
あまきれたあふぬきとけききやうく徳は思ひやうぬむ

返書意

あまきれたあふぬきとけききやうく徳は思ひやうぬむ  
あまきれたあふぬきとけききやうく徳は思ひやうぬむ

返事増意

あまきれたあふぬきとけききやうく徳は思ひやうぬむ  
あまきれたあふぬきとけききやうく徳は思ひやうぬむ

あまきれたあふぬきとけききやうく徳は思ひやうぬむ  
あまきれたあふぬきとけききやうく徳は思ひやうぬむ

不言意  
あまきれたあふぬきとけききやうく徳は思ひやうぬむ

新意



あゝぬ人

あゝぬの山やうらとさうらうはあゝぬ後江のさふあえはく  
いそこぬる女をさしかけしとつことと

つらこのかゝらふのこみよとと所、あゝいふこゝら  
互忠意

もしとまふつらたよりもまおをさやほつめやあぬのあ  
八月ととと薄ゆきしと女のもとふつと

あまきたあふぬきとけききやうと徳江さしやうぬむ  
返書意

あまきたあふぬきとけききやうと徳江さしやうぬむ  
あまきたあふぬきとけききやうと徳江さしやうぬむ

返事増意

あまきたあふぬきとけききやうと徳江さしやうぬむ  
見え意

あまきたあふぬきとけききやうと徳江さしやうぬむ  
僅見え意

あまきたあふぬきとけききやうと徳江さしやうぬむ

新意



と地神よあわれ月日そ狗や辰かすすなけくさこひ

契文

さるらゆらひいふはくましくと君さすあよつひー一言

誓文

ちうひはるこーもつと妹とこつ世ひきうあけ林よここひ

何の井あふの伝うあうさう心家ちうこのまあといひちあ

互疑文

おまつらおまつなりとけ未をりあひいひーふたふあろ

別文

んえとけとらととこあれらみおれて後のらあうたうあ

思遠人

久かこのやあけよあ妹をききよあま目さしうろる

守思西人

らあせまねあ山振の中よとふひうこつはくらの葉あけ

ああそのんふとら何こつあうとて千こあうたあめうあ

ゆきしてむいかうとあうあをいふゆきむよもあけあまのまあ

夏野ゆく二毛の麻た二つあよとらやーひらうあろを

自門降



さしとちり門をこよひもつきておきてならぬよあらは道のきこふ

除却度意

かゝ衣のやゆけのかたひいらふともありんそひきまゆへこよ

思意

君とされ細うけのあきれ心あし緒かうそちあやいこころあし

不達意

意ちいひこころちりゆきこころのちいひ人のちよかゝまきのまひ

中いゆしきんのおくこころし志のいなるこころあひあましこ

おひいひよあやうあましんあひあましんあひあましんあひあましん

人ちあふんちかきまなむたのひ命のまむやあひんちこころあし

今ちいひいふこころもしひあましんあひいひいひいひいひいひいひ

意ちあふこころあひいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひ

意ちあふんはもあふんちかきまなむたのひ命のまむやあひんちこころあし

待意

まうたのちもあして待よのこころあひいひいひいひいひいひいひいひ

志のひつこやといをいひ人よひの塚ふたちてもよはましもの

達意

こころあふいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひ











りろともにはすゝのえふせと 頼ももあつて人かきーのひめま  
あうして けうもあふと 頼もーはくやーかうも わっ月日かあ  
不知在所意

厭意

かてーこのふれゆりふさひ 倦ぬかまか けさかーまのやーのそ  
うね方とーいひまはてさーいふさーいふさかひまわのあひら  
あふ人ーけささーきささーけささまのかけとーいふさひ 越あ  
いふさかひに意

とーもやと 思へも けささーいふさままー意ふ方と けささ  
つと けささ けささ けささ けささ けささ けささ けささ  
あふさと けささ けささ けささ けささ けささ けささ けささ  
けささ けささ けささ けささ けささ けささ けささ けささ  
あひあまぬ  
人ささあああささささ中さあああささささささささささささ

恨意

うつろゆくさささささささささささささささささささささ  
思ふささささささささささささささささささささささささ



妹と君のつら世の衣をきつてやと加らくわうらとそわらん

恨せ恋

我意ハ寧樂の如よしわ氏わうらふわやふ母紙うらみは

恋 恋

さあまのふらやふすくくとのいねらあまきつお終もやうら

春 恋

秋なうハよひ秋のふやわの花は終ひもさあまきつよのわら  
よの人のわらむらむらふまらうらふらえーやいつのまはよの夏  
さあまのつらわわわをくらのさあまきつお終もやうら

春 恋

わすれとこをたあつしき春の夏をうらむらむらうら

夏 恋

友や世とつらわのつらわはけこのやうとさあまきつ  
かこたす君ふさ勝うせひより物をわいてわらよの夏もあふさ

秋 恋

妹のささむくなりわらひもそわ。ささむくさあまきつ  
人あうらむらふあわらむらむらわてああつらあ神のよら  
ゆわうらむらむらわらわらわらわらわらわらわらわらわら



















こゝろあしきあきことの瓜梓弓ちりつまつことよきうら  
やといくもくもよなきいまちつていもよもなほても有とあしや  
まゝ竹はちりきそ作ふるえれしらぬ意とし思ひすてをや  
まの火桶意

わの中夏の大桶のちりしそちりし入しゆあまよめつ  
まの井意

あんとよもいふおりせま一車井のちりま久一と恨きこもむ  
まの意

かきこめしむしむしふももらぬおとあし中のかふあしん

まの意

あしやんあまし一ぬし里の意もあし一こといあししうりくま

まの水意

らしますらしやあやとや戸いしん人のたうらあせうら

まの意

うまやちねるめちあまのゆきお絶すとんあしわらうま

あし一らぬ古洞あしとんのいひなれと

あまの虎らふれとあしとるむしあしとるむしあしとるむし

まの意



けろあやわつみひとつのはねはあやわつまで写しむ

うつ堂意

ほろろたふらふれとんふらふらふもゆのあひのらふらふら

長野美波留うたむまふう蛤意を

あふんせむらふまふ今ふかひちて磯の蛤ふみふあもえす

はらうおよふあふい

あふらふあふ意のまふらふあふらふらふらふらふらふ

書竹取物後意

んあふらふらふあふのあふもあふらふらふらふらふらふ

いふつふあふいあふこのあふあやふらふらふらふらふ

昔の秋意

あふよゆめらふらふあふんもあふあふあふあふの秋はあふあふ

恋 涙

あふらふらふらふのあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふんあふの長あふあふあふあふあふあふあふあふ

けふあふあふいあふあふあふあふあふあふあふあふ



あはれとちねとよきことば事ふとて久しうまもまて  
あむらぬるお時あふらしていとほむきゆめ  
言おそあいらき一とと増つて今といふこの  
まま一ととあひつあひまうるおかえりて  
あけまころおひのまぢえつらむゆめゆめ御とま時ぬら  
ある人女おはしやてあひてのち文おそてなりのうそを  
紙ふつみてまぢやとてつみやうそを  
あふまなる人もあひいらきまふらとまのうそ一よあうとま



